

早稲田大学 商学部 政治・経済 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問は4。政治と経済理論は1題ずつ、国際関係は2題で、経済の分量が多い。政治でも経済でも計算問題が出題された。100字の記述問題もある。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	日本の選挙制度	問1は標準的問題だが、Aの記入にはとまどったかもしれない。 問2(1)では、第1回総選挙の有権者が全人口の1%であり、現在は80%であることくらいは知っているようが、人口数までは気が回らない。(2)では、戸別訪問が禁止されたことは知っていても、供託金まではわからないだろう。 問3のドント式計算は確実に得点できるもの。	標準
II	国際社会の変容	問1(1)では、国連の原加盟国数と現在の加盟国数から判断できる。(2)では、現在約60億人とは知っていても1950年の人口までは知らない。他は、地道に資料集を読んでいけば対応できる。	標準
III	市場機構と貨幣	標準的問題。問2ではニュースで頻出の言葉がほどよく散りばめられている。問5の記述問題は、問題文を理解して中古車を金貨に置き換えて説明させようとしたのだろう。	標準
IV	国際通貨制度	問2・7・9・10と計算を必要とする問題が多いが、筋道を立てて考えればわかるもの。	標準

〔総合コメント〕

<p>I・IIにはあらゆる知識を総動員して考えさせる問題がある。一見すると難しいと思われるが、冷静に考えると基本知識を組み合わせれば判断できる問題が多い。このような問題になれておくと、本番であわてないで済むだろう。</p>
